

No. 869

消えゆくリヤカー

人力車、馬車、大八車に次いで都会からめっきり姿を消してしまったリヤカー。自動車全盛の世の中でも、小回りがきく点ではリヤカーにまさる車はない。だが都市化の波は庶民の暮しに密着したリヤカーまでも奪い去ろうとしている。

公害報告 環境破壊

人間生活の環境がこれほど重要な問題として語られたことはかつてなかった。京浜工業地帯の大工場群に囲まれた過密地域の真中に現れたゴースト・タウン。川崎市宮四谷住宅である。この4月まで40戸の生活があった。最初の人がこの家を出ていったのは4月13日だった。人々は次々に20年近く慣れ親しんだ生活の場を捨て、疎開していった。「日本一の大気汚染地区」の川崎、洗濯物は黒く汚れぜん息患者が続発する川崎。すぐ近くの鍛造工場からは、昼夜をとわず響く震動音。人々は「むちゃな亜硫酸ガスの吹出しはやめてくれ」「音を小さくしてくれ」と工場への抗議に立ちあがった。しかし、格別の対策は講じられる事なくまた、この住宅を払い下げてもらうことも出来ず、人々は公害に負け、疎開していったのである。ゴースト・タウンと化した市営住宅の側には小学校があった。この小学生達の疎開もそう遠くはないだろう。公害戦争という名のもとに。自然の破壊は人間生活の破壊に結びつく事をようやく私達は身をもって感じはじめている。